

平城宮跡歴史公園 朱雀大路東側地区（Ⅰ期）

令和4年11月

奈良県 県土マネジメント部

地域デザイン推進局 平城宮跡事業推進室

目次

1. 事業の概要
2. 事業の必要性等に関する視点
 - 1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化
 - 2) 事業の整備効果
 - 3) 事業の投資効果
3. 事業の進捗の見込みの視点
4. 関連事業の状況
5. コスト縮減の可能性の視点
6. 今後の方針（案）

1. 事業の概要

■平城宮跡歴史公園とは

平城宮跡歴史公園は、特別史跡であり、世界遺産の構成資産の一つである。我が国を代表する歴史・文化資産である平城宮跡の一層の保存・活用を図る目的で、国と奈良県を中心とした地域が連携して整備をすすめている都市公園である。



【平城宮跡歴史公園】

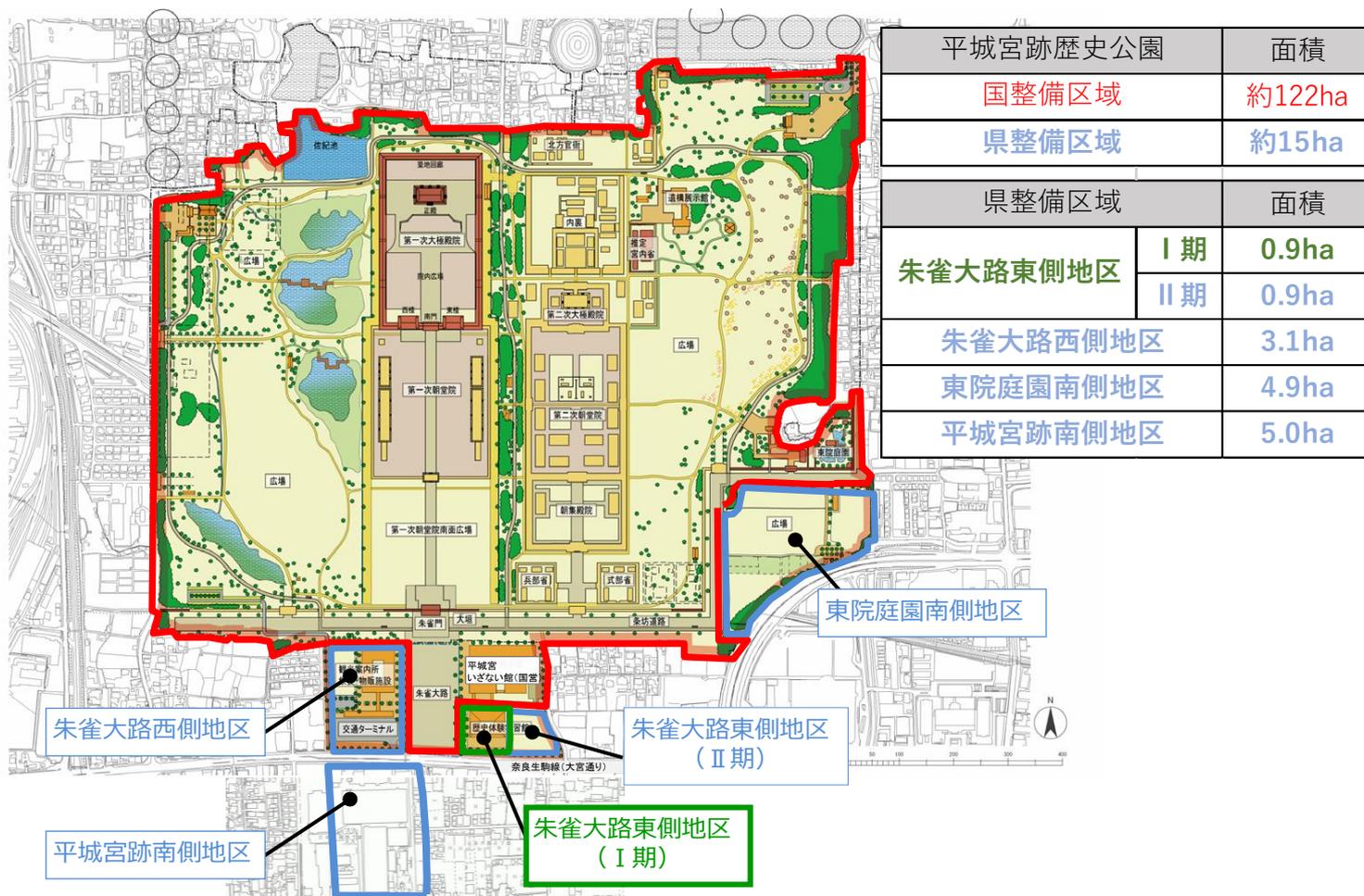
- ・面積：約137.0ha
 - 国営公園区域：約122ha
 - 県営公園区域：約15ha



1. 事業の概要

■平城宮跡歴史公園の区域

平城宮跡歴史公園は、国営公園の区域を中心に、周辺で奈良県を中心とした地元が国営公園と連携した事業を実施していく区域を含めて、一つの公園となっている。



1. 事業の概要

■平城宮跡の保存・整備の経緯

平城宮跡は文化庁の特別史跡に指定され、調査研究が進められてきた。平成20年に国営公園として閣議決定され、国による保存・整備が継続して進められるとともに、県においても拠点ゾーンの整備を進めてきた。

大正11年	「史跡」指定
昭和34年	奈良文化財研究所による継続的な発掘調査の開始
昭和52年	「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」策定（文化庁） >>>『遺跡博物館』として段階的な整備を開始
平成10年	文化庁による朱雀門・東院庭園の復原 ユネスコ世界遺産に登録（『古都奈良の文化財』の構成資産）
平成20年	「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画」策定（文化庁） 国営公園化に関する閣議決定・事業化 「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画」策定（国土交通省）
平成21年	平城宮跡歴史公園の都市計画決定
平成22年	文化庁による第一次大極殿の復原 平城遷都1300年記念事業の実施
平成25年	拠点ゾーン整備計画の策定（奈良県・国土交通省）
平成29年	県整備区域（朱雀大路東側地区）の事業認可
平成30年	朱雀門ひろば完成（奈良県・国土交通省）
令和2年	県整備区域（平城宮跡南側地区）の事業化
令和4年	国土交通省による大極門（南門）の復原

1. 事業の概要

■基本計画の概要

「平城宮跡の保存と活用を通じて、『奈良時代を今に感じる』空間を創出する」という基本理念を掲げ、歴史・文化資産としての適切な保存と活用、体感・体験とその拠点づくり、国営公園としての利活用性の高い空間形成となる整備を実施する。

シンボルゾーン



- 第一次大極殿正殿や朱雀門等の復元建物などを中心に、歴史資産を活かした空間づくりを行い、往時の平城宮の様子を体感・体験できるようにします。

緑地ゾーン



- 平城宮跡の広がりや周辺地域との歴史的な関わりを感じ、散策や自然観察など多様なレクリエーション利用ができるようにします。

* 園内を大きく4つにゾーン分けして、整備を実施



外周ゾーン



- 隣接する市街地の遮蔽とあわせて、循環园路や公園の出入口として必要な施設を設けます。

拠点ゾーン

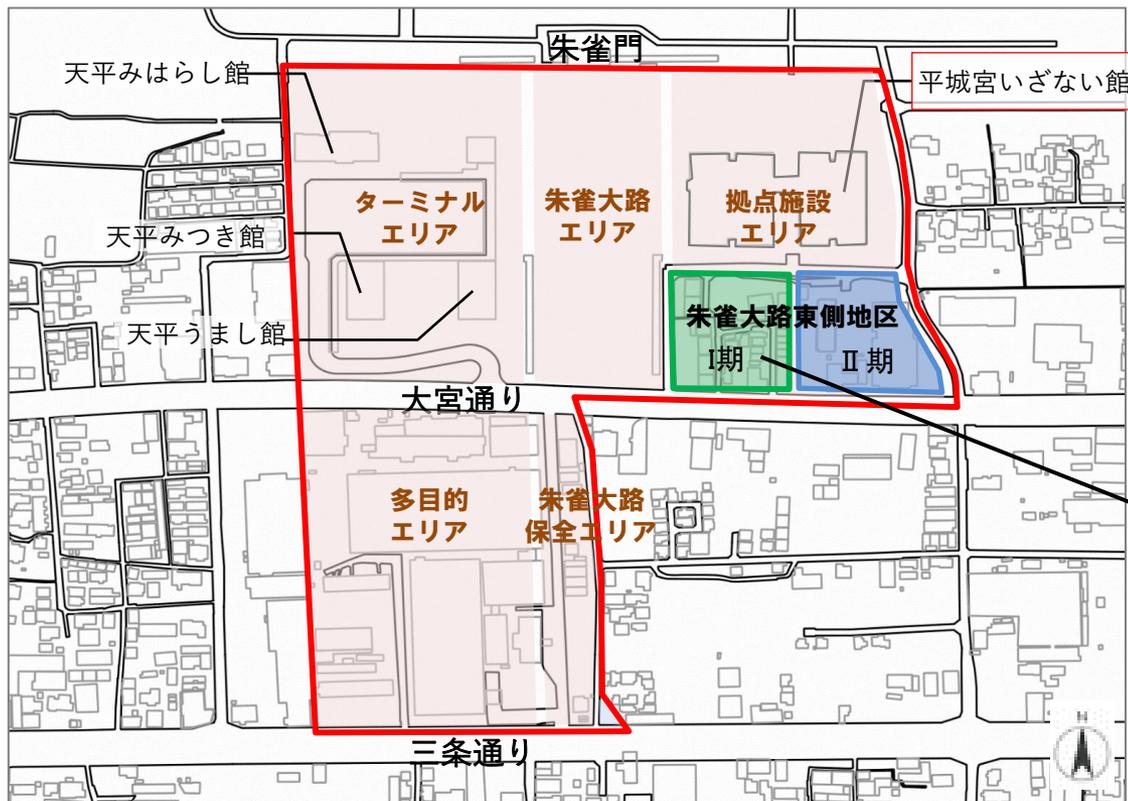


- 平城宮跡の正面玄関として、平城宮跡全体のガイダンスや資料展示を行う施設、利用案内サービス提供の拠点となる施設等を集約的に設けます。

1. 事業の概要

■拠点ゾーンの概要

- ・平城宮跡の正面玄関及び奈良観光の玄関口として、公園全体の利用、管理・運営の拠点及び歴史・文化交流拠点並びに観光ネットワーク拠点の機能を持ったゾーンとするとともに、朱雀大路から朱雀門に至るシンボリックな軸を強調し、往時の平城京のスケールを感じさせる広がりのある空間形成を行う。



■朱雀大路東側地区（I期） 歴史体験学習館の 利用・整備方針

歴史体験学習館

- ・奈良全体にかかる歴史・文化情報の発信や交流の会場となる施設



1. 事業の概要

- 平城宮いざない館をはじめとする既存施設は、基本計画（平成20年12月策定）基本方針①・②に基づき、主に「平城宮跡」に関する展示・体験を行い、公園内の周遊を促進。
- 歴史体験学習館は、同計画基本方針③に基づき、主に「平城京」に関する展示・体験を行うことで、拠点ゾーンの新規施設として整備し、県内各地（奈良全体）への周遊を促進。

「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画」（平成20年12月）

平城宮跡歴史公園内施設のうち、展示機能・体験機能を有する施設

基本理念

基本方針

古都奈良の歴史的、文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創出する。

① 特別史跡・世界遺産である歴史・文化遺産としての適切な保存・管理

平城宮跡が、国の特別史跡として指定され、世界遺産として登録された「古都奈良の文化財」の構成資産であることを尊重し、貴重な歴史・文化遺産として確実に保存し、良好な状態で後世に伝えます。

さらに、今後も遺跡の発掘調査・研究が継続される場所として、発掘調査・研究自体、また、蓄積・深化されていく考古学的知見や遺跡の表現手法の技術的發展を事業に適切に活かしていくことにより、特別史跡・世界遺産にふさわしい「遺跡博物館」※としての機能を持つ公園整備を実施します。

※遺跡博物館：遺跡を守り、研究し、これを整備して国民的な利用に供するものとして提案された遺跡の一つの存在形式（「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」による）。

② 古代国家の歴史・文化の体感・体験

多様な来園者の誰もが楽しみながら古代国家の歴史・文化を体感し、体験的に学ぶことができるように、遺跡の公開や空間スケールを活かした遺跡の表現、平城宮跡周辺の古都奈良の歴史的、文化的景観と併せ、往時に思いを馳せることのできる景観の形成を図ります。また、興味をかき立てるわかりやすい解説や多彩なイベントを実施します。

③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり

古代において国際都市であった平城京の中心の地として、古都奈良の歴史・文化を伝える情報発信のセンターとなるとともに、歴史・文化等を通じた国際交流の拠点としての活用を図ります。

④ 国営公園として利活用性の高い空間構成

関係機関との連携のもと、快適な空間づくりときめ細やかなサービスの提供により、四季を通じて様々な来園者が一日を充実して過ごすことのできる公園を目指します。併せて、地域住民・NPOをはじめとした多様な主体が整備・管理・運営に参画し、公園に集う人全てで作り、育む公園とします。

復元建造物等



朱雀門
中央区朝堂院
第一次大極殿
第一次大極殿院
内裏
推定宮内省
造酒司井戸
推定大膳職
東院庭園
第二次大極殿
東区朝堂院
式部省・兵部省
壬生門
南面大垣

遺構展示館



発掘調査で見つかった
役所の建物跡である遺
構を、発見当時の状態
で保存・展示。

復元事業情報館



「第一次大極殿院建造物
復元整備工事」を紹介。
本物の資材・道具・工
法等の展示に併せ、
第一次大極殿院の復元
模型、大型映像、体験
展示。

平城宮跡資料館



奈良文化財研究所によ
るこれまでの発掘調査・
研究の成果をもとに、
土器や瓦、木簡をはじ
め、建物模型や航空写
真、発掘のジオラマ模
型などで平城宮を分か
りやすく展示。

平城宮いざない館



平城宮跡の出土品や資
料の展示、宮跡全体の
ガイダンスを行う施設。
※「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園
平城宮跡区域 基本計画」より

主に「平城宮跡」に関する展示・体験

平城宮跡歴史公園内の周遊促進

天平みはらし館・天平うまし館

天平みはらし館では、VRシアターで遣唐使や平城京の当時の風景などが映像で学べる。
天平うまし館では、遣唐使の人物に関する展示や屋外に実際に乗ることができる復元遣唐使船を展示。

歴史体験学習館

奈良全体にかかる歴史・文化情報の発信や交流の会場となる施設。
「国際交流」を基本テーマとしながら天平文化が開いた過程とともに、奈良の都・平城京を中心に栄えた華やかな天平文化について「平城京へとつながる歴史」「正倉院の宝物」「奈良時代の文化・くらし」を通じて学ぶ。

※「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画」、平城宮跡歴史公園 朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画より

主に「平城京」に関する展示・体験

県内各地への周遊促進

1. 事業の概要

○平城宮跡歴史公園内での歴史体験学習館の位置づけ

- 整備計画では、既存施設との相互利用により平城宮歴史公園の魅力が高められるよう、歴史体験学習館は、主に体験と交流の機能を有した施設として位置づけ。

平城宮跡歴史公園内各施設の主な機能

平城宮跡内施設	展示機能	体験機能	交流機能	飲食機能	物販機能	展望機能	集合機能	主な内容
平城宮跡資料館（奈文研）	●							発掘遺品展示
復原事業情報館（国交省）	●							復原工事の紹介、展示
遺構展示館（文化庁）	●							建物跡の遺構の展示
平城宮いざない館（国交省）	●	○ 木簡文書 づくり等			○			平城宮跡全体のガイド ンス展示
天平みはらし館（奈良県） 休憩・展望施設		○ VR シアター				●		平城宮跡を一望できる 展望デッキ
天平つどい館（奈良県） 団体集合施設							●	修学旅行など団体客の 集合スペース
天平みつぎ館（奈良県） 観光案内・物販施設					●			奈良の特産品、お土産 販売
天平うまし館（奈良県） 飲食・交流施設	○ 復原 遣唐使船	○ 復原 遣唐使船乗船	○ イベント 広場	●				レストラン・カフェ
歴史体験学習館（奈良県）	○	●	●					歴史体験学習館

●:メイン機能 ○:サブ機能

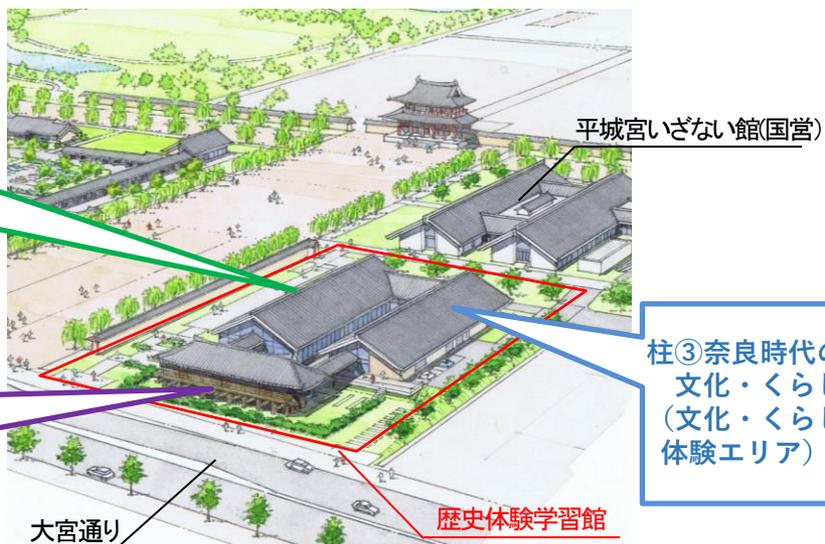
1. 事業の概要

■整備計画の概要

○ 歴史体験学習館の考え方

“奈良時代を今に感じる”歴史文化体験と交流の舞台

	柱① 平城京へとつながる歴史	柱② 正倉院の宝物	柱③ 奈良時代の文化・暮らし
コンセプト	国際交流を通じてどのように平城京や天平文化の発展につながったのかを学習	宝物の美しさ、国際性豊かな文化に触れて華やかな天平文化を学習	国際交流豊かな奈良時代の宮廷行事や人々のくらしぶりを学習



●地区全体の景観形成の基本方針を踏まえることとし、

・「柱①平城京へとつながる歴史」及び「柱③奈良時代の文化・暮らし」の2棟の建築物は、隣接する国の「平城宮いざない館」(切妻造り)との意匠統一に配慮

・大宮通り側に近い「柱②正倉院の宝物(宝物体験エリア)」の建築物は、校倉式意匠化建築物

●具体的な外観・構造・素材等については、大宮通りの沿道景観等にも配慮し、基本設計段階で遺産影響評価(HIA)結果及び検討委員会の意見を反映

1. 事業の概要

■朱雀大路東側地区（Ⅰ期）の新規事業採択時の概要

- 名称：平城宮跡歴史公園 朱雀大路東側地区（Ⅰ期）
- 箇所：奈良市二条大路三丁目地内
- 面積：約0.9ha
- 新規事業採択時期：平成29年度
- 全体事業費：46億円
- 費用便益比： $B/C=1.15$ （国営公園と一体的に算出）

■朱雀大路東側地区（Ⅰ期）の事業経緯

- ◇平成30年 2月 朱雀大路東側地区 事業認可（平成30年2月～令和8年3月）
- ◇平成30年 3月 用地取得の着手（住民説明会の実施）
- ◇令和 2年12月 平城宮跡歴史公園 朱雀大路東側地区
（歴史体験学習館）整備計画を策定

⇒現在、平城宮跡歴史公園 朱雀大路東側地区
歴史体験学習館建築基本計画、コンテンツ基本計画の策定中

2. 事業の必要性等に関する視点

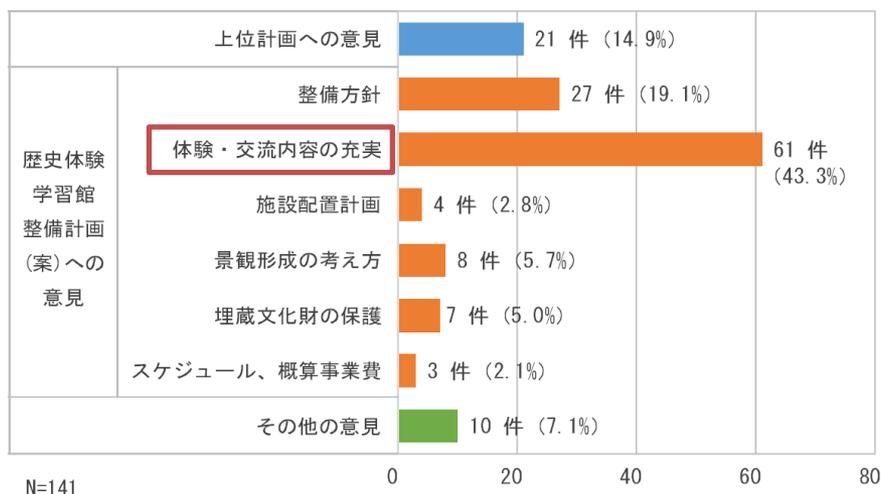
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

■平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）整備計画（案）に対するパブリックコメントの実施結果概要

実施概要

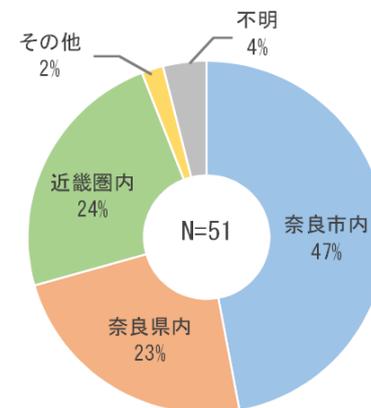
- 実施期間：令和2年10月1日～10月31日【31日間】
- 実施手法：周知用チラシ（概要版）の配布、ホームページ等
- 提出方法：郵送、FAX、メール

<意見の内訳>



<居住地別>

- 施設整備に肯定的なご意見（130件/141件）
 - ・リピーターが増える仕掛けがほしい。
 - ・VR等の新技術で天平時代を体験できる施設にしてほしい。
 - ・国際交流をテーマにイベントを定期的で開催してほしい。
- 施設整備に否定的なご意見（11件/141件）



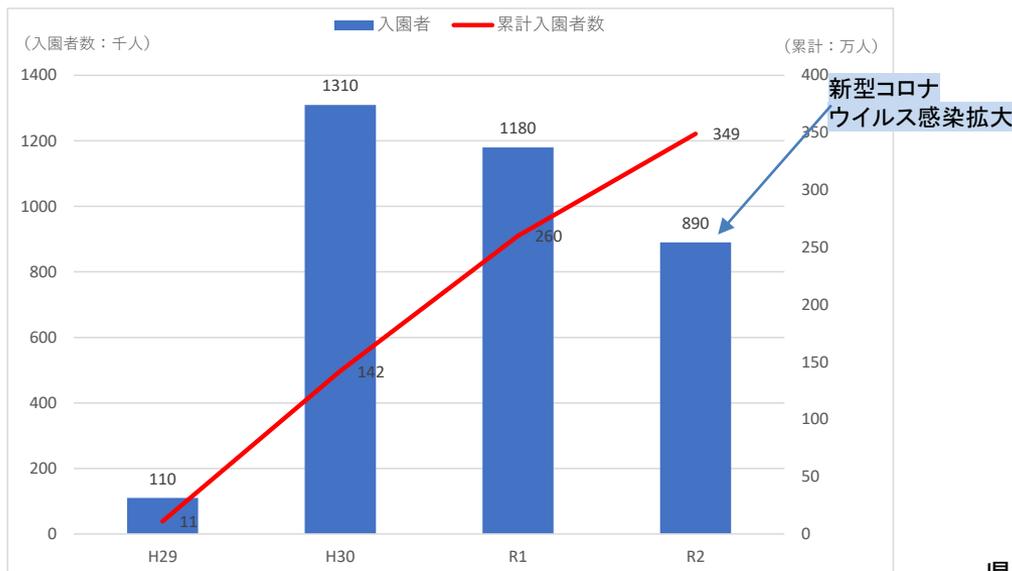
施設整備に肯定的な意見について、体験・交流内容の充実に対する要望やアイデアなど、施設整備を期待する多くの前向きなご意見をいただいた。

2. 事業の必要性等に関する視点

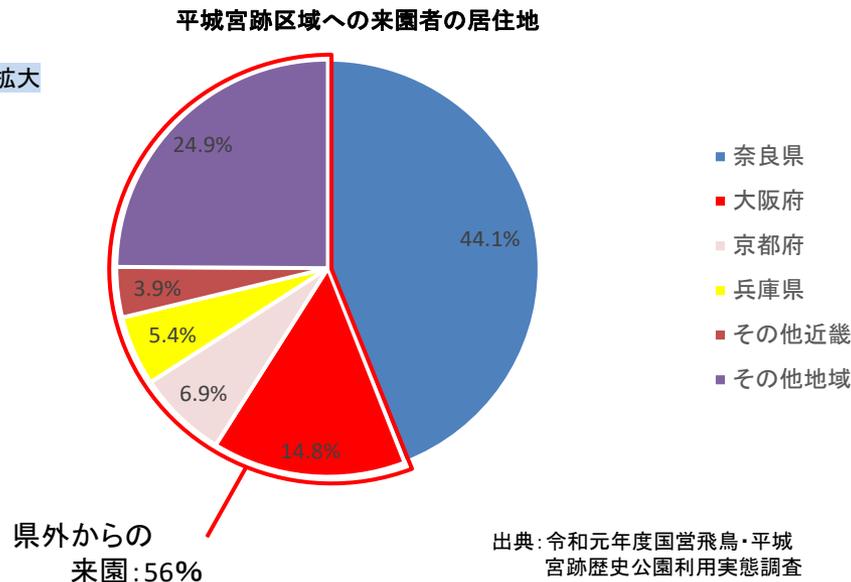
2) 事業の整備効果

- 平成29年度の開園時から令和2年度までの入園者数累計は349万人である。
- 平成30年度は131万人、令和元年度は118万人だったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により前年の8割程度の利用者数となっている。
- 奈良県外からの来園者が半数以上、近畿圏外からの来園者は約1/4（令和元年度）と、広域的な利用も多い。

入園者の推移



広域的な集客実績

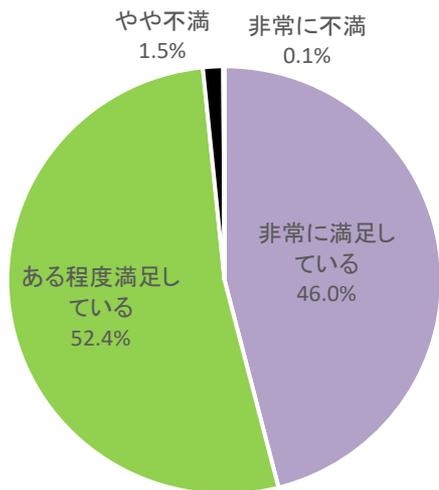


2. 事業の必要性等に関する視点

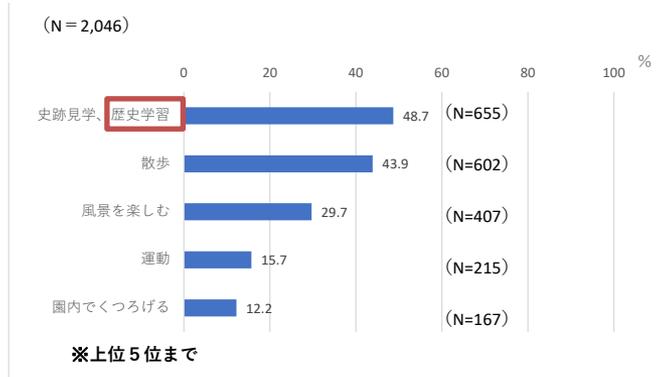
2) 事業の整備効果

- 平城宮跡利用者の満足度は高い状況。
- 利用者は主に史跡見学、**歴史学習**や散策等を**目的**に来訪している。
- 「平城宮跡の広がり」と往時の雰囲気を感じられる空間整備」や「公園の正面玄関となる拠点ゾーン」の整備を継続して進め、**平城宮跡の魅力**を高めていく。
- 歴史体験学習館の整備により、奈良全体にかかる**歴史・文化情報**を発信することが可能となる。

平城宮跡利用者の満足度



平城宮跡利用者の来訪目的



平城宮跡の魅力の向上にむけて



平城宮跡の広がり」と往時の雰囲気を感じられる空間整備



公園の正面玄関となる拠点ゾーンのイメージパース

出典:R2年度 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園利用実態調査

2. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果

■公園整備により生じる価値の体系と評価対象価値

事業評価にあたっては、「改訂第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（国土交通省）」に基づいて算定。

価値分類		意味	機能	価値の種類（例）
便 益	直接利用価値	直接的利用により生じる価値	公園までの移動費用	交通運賃、ガソリン代 など
	間接利用価値	間接的利用により生じる価値	都市環境維持・改善	緑地の保存効果 動植物の生息・生育環境の保全効果 二酸化炭素の吸収効果 など
			都市景観	季節感を享受できる景観の保全 など
			都市防災	災害応急対策施設の確保 災害時の避難地確保 災害時の救援活動の場の確保 復旧・復興の拠点の確保 など

公園整備によってもたらされる価値を貨幣換算

2. 事業の必要性等に関する視点

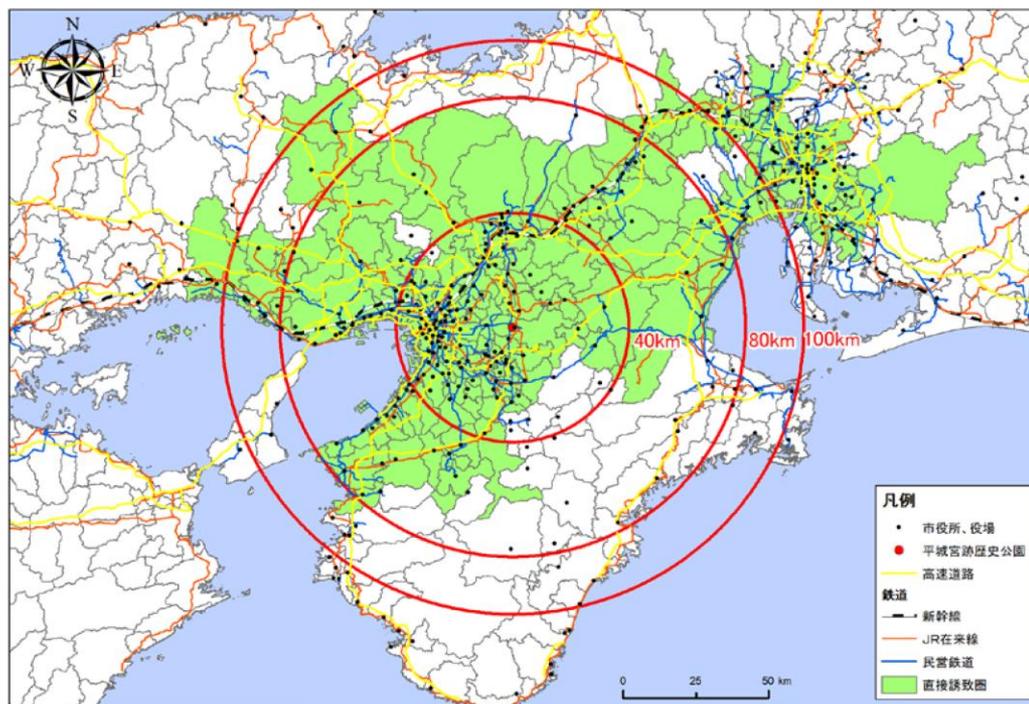
3) 事業の投資効果

■誘致圏のゾーン設定の考え方

直接利用価値の誘致圏は、平城宮跡区域の利用実態調査結果を基に、利用者の居住地分布状況を「実際に利用が多いゾーンから利用者割合を累積」する方法で設定し、公園へのアクセスのための交通網（高速道路及び鉄道）の整備状況を踏まえる。

間接利用価値は40km以内となる範囲で設定。

平城宮跡歴史公園の誘致圏の範囲

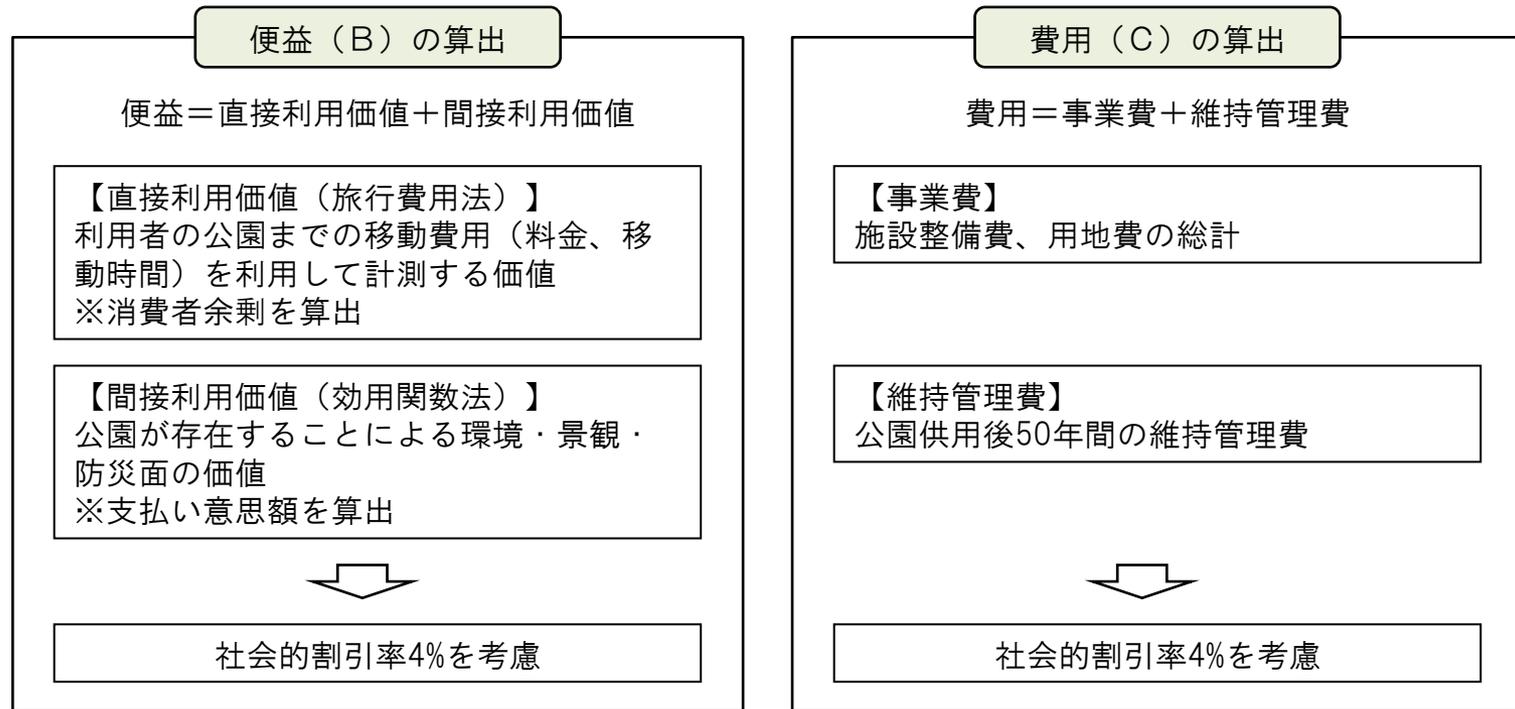


2. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果

■計測手法の概要

- 便益として、直接利用価値と間接利用価値を計測。
- 2つの価値の合計により総便益（B）を算出し、施設整備費、用地費、維持管理費の合計による総費用（C）との比率により費用対効果（B/C）を算出。



費用対効果（B/C）＝便益（B）／費用（C）

2. 事業の必要性等に関する視点

3) 事業の投資効果

■事業の投資効果（国営公園と一体的に算出）

算出条件

- 基準年：令和3年度
- 評価期間：50年間（H29～R71）
- 社会的割引率：4%
- 誘致圏の設定：直接利用価値…90%誘致圏、間接利用価値…40km
- 適用した費用便益分析マニュアル：大規模公園費用対効果分析手法マニュアル 改訂第4版（平成30年）
- 推計に用いた資料：日本の地域別将来推計人口（平成30年）、日本の世帯数の将来推計（2019年）

※平城宮跡歴史公園は、国営公園区域と県整備区域で一つの公園であるため、国営公園と一体的に算出

■事業全体の投資効率性：事業の透明性の確保、説明責任の達成を図るもの

便益（B）	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益比
	3,874億円	815億円	4,689億円	
費用（C）	建設費	維持管理費	総費用	2.2
	2,013億円	110億円	2,123億円	

■残事業の投資効率性：事業継続・中止の判断にあたっての判断材料を提供するもの

便益（B）	直接利用価値	間接利用価値	総便益	費用便益比
	741億円	116億円	857億円	
費用（C）	建設費	維持管理費	総費用	1.9
	401億円	57億円	458億円	

3. 事業の進捗の見込みの視点

■今後の事業見通し

- 朱雀大路東側地区 歴史体験学習館の整備について、**用地買収が完了した箇所から発掘調査を実施し、造成工事及び建築工事**を進める。
- 歴史体験学習館の完成は、**令和8年度**を目指す。

- | | |
|-----------|------------------------|
| • 令和4年度 | 用地取得、発掘調査
造成設計 |
| • 令和5～6年度 | 用地取得、発掘調査
建築設計、造成工事 |
| • 令和6～7年度 | 建築工事、外構工事 |
| • 令和8年度 | 完成予定 |



用地買収前の状況



用地買収の状況 (R4.10月撮影)

- | |
|-------------------------------|
| • 用地買収率 . . . 90% |
| • 事業進捗率 . . . 22.8% (R4.3末時点) |

4. 関連事業の状況

■ 県営公園事業の進捗状況

■ 朱雀大路西側地区

- 全体の利用拠点となる空間として、飲食・物販施設等を整備

>>>平成29年度朱雀門ひろばの完成及び供用開始

朱雀門ひろば

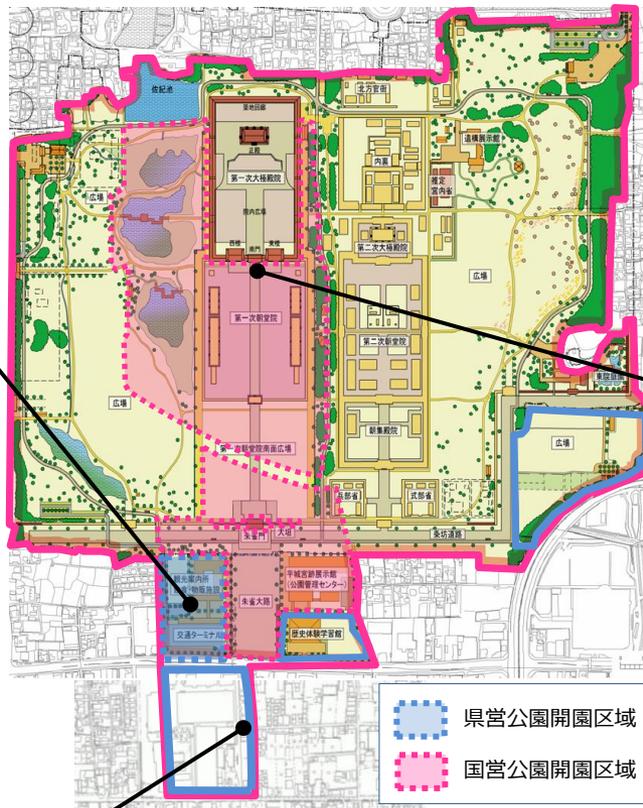


■ 平城宮跡南側地区

- 平城京のスケールを感じられる空間と史跡外の立地を生かした休憩・便益施設等の整備

>>>令和4年度 朱雀大路保全エリアの一次造成

南側地区の一次造成（朱雀大路保全エリア）

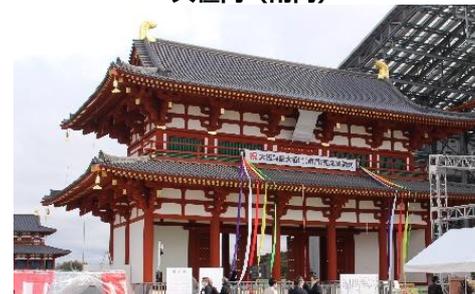


■ 国営公園事業の進捗状況

- 広がりのある空間で往時の宮（都）の歴史・文化をわかりやすく体感・体験できる整備として、宮の中心を成す第一次大極殿院の建造物復原（国）

>>>令和3年度 大極門（南門）の復原が完成

大極門（南門）

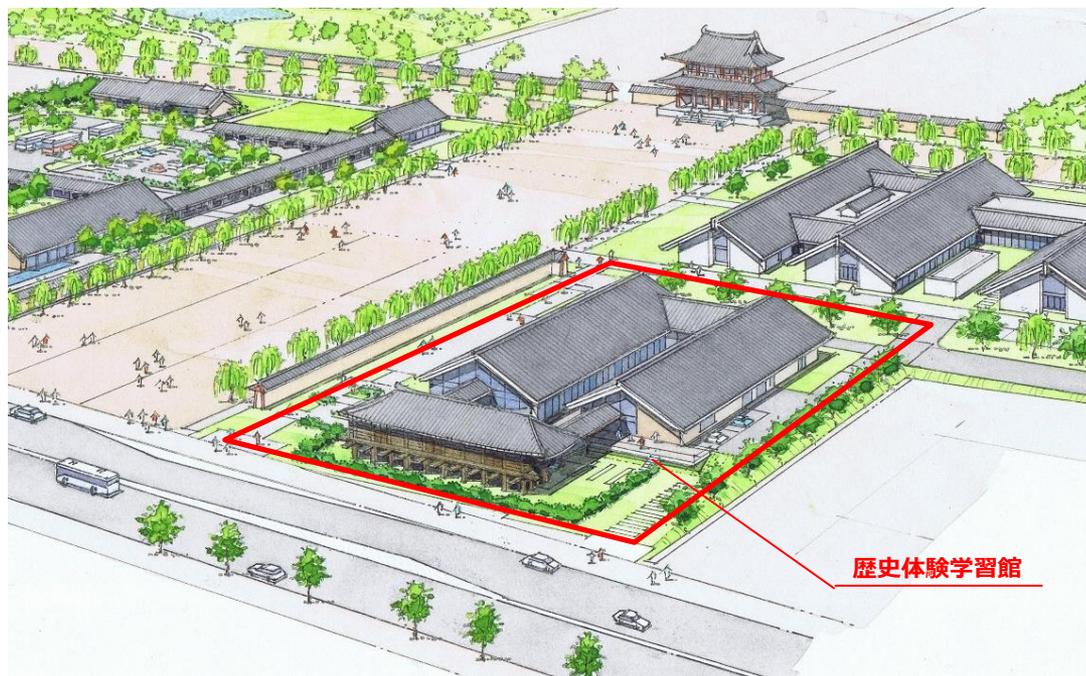


第一次大極殿院の整備イメージ

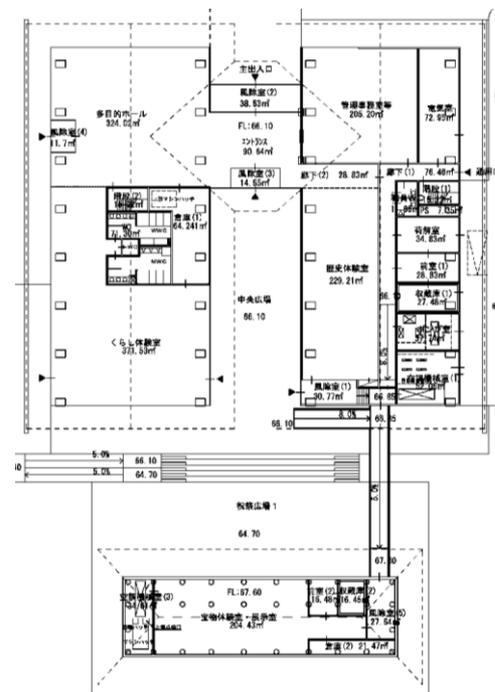


5. コスト縮減の可能性の視点

- 施設の計画・設計、施工のそれぞれの段階で、**材料や工法の検討を行いコスト縮減**に努める。
- 今後の管理や改修等を含めた**ライフサイクルコストの縮減**に努める。



歴史体験学習館 鳥瞰イメージ
(整備計画(案))



歴史体験学習館 平面イメージ
(基本計画(案))

6. 今後の方針（案）

■事業の必要性に関する視点

- 閣議決定に基づき平城宮跡の保存と活用が求められており、本事業により平城宮跡や自然的環境の保存、地域の観光振興等に寄与している。
- 東側地区において、平城宮跡における歴史への関心や賑わいを一層向上させることを目的として、平城宮跡歴史公園朱雀大路東側地区（I期）における歴史体験学習館の整備の必要性は高い。
- 費用便益比（B/C）は、事業全体で2.2、残事業で1.9。

■事業進捗の見込みの視点

- 朱雀大路東側地区（I期）の整備について、用地買収や発掘調査等、歴史体験学習館の整備を計画的に実施している。
- これまでも西側地区等の朱雀門ひろばの整備・取組や、国による復原整備により、平城宮跡における関心を高め、賑わいを創出してきた。

⇒ 以上の視点から、事業継続が妥当と判断

平城宮跡歴史公園 朱雀大路東側地区（Ⅰ期）

【参考資料】

令和4年11月

奈良県 県土マネジメント部

地域デザイン推進局 平城宮跡事業推進室

7. 参考資料

○改訂第4版 大規模公園費用対効果分析マニュアルでは、モデルによる需要推計結果と利用者実績との差異が大きい場合、補正値を導入することとしている。

各計測年次における単年度便益額（直接利用価値）

便益計測年度	利用者数 (実績・計画)	需要推計値	補正値	補正前の 単年度便益 (百万円)	補正後の 単年度便益 (百万円)
H 2 9 (部分供用開始)	—	6,972,386	0.17	76,681	12,942
R 0 3 基準年	1,183,847	7,014,060	0.17	76,984	12,994
R 2 2 (全体供用開始)	1,730,000	8,255,669	0.21	73,358	15,372
R 4 8 (部分供用開始の49年後)	—	7,529,478	0.21	66,388	13,912
R 4 9 (部分供用開始の50年後)	—	6,657,963	0.21	63,728	13,354

※部分供用～全体供用開始前は、令和元年度の利用者数(1,183,847人)を基に算出された補正値を採用し、全体供用開始以降は計画値(1,730,000人)を基に算出された値を採用。

7. 参考資料

○参考に平城宮跡歴史公園全体の便益、費用から朱雀大路東側地区の便益、費用を抜き出した値により簡易的に歴史体験学習館の費用便益比を算出

各計測年次における歴史体験学習館における単年度便益額推定値（直接利用価値）

便益計測年度	公園全体の利用者数（実績・計画）	公園全体の便益の単年度便益（百万円）	歴史体験学習館の利用者数	歴史体験学習館の推定便益（百万円）
H 2 9（部分供用開始）	—	12,942	—	—
R 0 3 基準年	1,183,847	12,994	110,000	1,207
R 2 2（全体供用開始）	1,730,000	15,372	160,500	1,428
R 4 8（部分供用開始の49年後）	—	13,912	—	1,293
R 4 9（部分供用開始の50年後）	—	13,354	—	1,241

※歴史体験学習館の推定入場者数と平城宮跡歴史公園全体の推定入場者数より、公園全体の便益から歴史体験学習館の便益を算出。費用は歴史体験学習館の用地費、施設費、維持管理費を計上。

※便益の発生は、平城宮跡歴史公園全体の便益では、部分供用が開始されたH29より発生しているが、個別に算出した歴史体験学習館の費用便益比については供用目標であるR8年より便益が発生することとする。

7. 参考資料

■朱雀大路東側地区（歴史体験学習館）の費用便益比（県営）

■事業全体の投資効率性：事業の透明性の確保、説明責任の達成を図るもの

便益（B）	直接利用価値	間接費利用価値	総便益	費用便益比
	247億円	48億円	295億円	
費用（C）	建設費	維持管理費	総費用	5.5
	44億円	9億円	53億円	

■残事業の投資効率性：事業継続・中止の判断にあたっての判断材料を提供するもの

便益（B）	直接利用価値	間接費利用価値	総便益	費用便益比
	247億円	48億円	295億円	
費用（C）	建設費	維持管理費	総費用	7.7
	29億円	9億円	38億円	